

平成 29 年度第 2 回総合教育会議議事録

日 時	平成 30 年 2 月 13 日 (火) 午後 2 時から午後 3 時 30 分まで			
場 所	ひかりプラザ 5 階教育資料室			
出席者	構成員	市長 教育委員会教育長 教育委員会教育長職務代理者 教育委員会委員 教育委員会委員 教育委員会委員 説明員 政策部長 政策経営課長 文化と人権課長 スポーツ振興課長 教育部長 総合教育担当課長 教育総務課長 学務課長 学校指導課長 学校指導課統括指導主事 学校指導課指導主事 学校指導課指導主事 社会教育課長 ふるさと文化財課長 図書館課長 学校関係 事務局 傍聴人	井澤 邦夫 古屋 真宏 富山 謙一 高橋 道子 戸塚 晃 佐久間 博美 水越 寿男 藤原 大 沢柳 和彦 木村 達郎 堀田 順也 本橋 信行 新出 尚三 中島 弘美 松浦 素明 三澤 巨潤 福澤 真吾 原 佳代 千葉 昌恵 高杉 強 藤川 浩二 渡辺 大輔 鈴木 輝哉 重田 晋作 千田 孝一 大嶽 みなみ	1 人

午後 2 時 00 分開会

1 開会

○井澤市長　それでは、平成 29 年度第 2 回総合教育会議を開催いたします。本日は、大変お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。議長を務めさせていただきます市長の井澤でございます。よろしく願いいたします。

2 協議・調整事項

(1) グローバル社会で活躍する人材の育成について

○井澤市長 現在、平昌 2018 冬季オリンピックが開かれていて、日本選手団は昨日銀メダルと銅メダルを獲得しました。オリンピックという国際的な大会が開かれている状況を見て、日本に来る東京 2020 オリンピック・パラリンピックをどのように開催していくのかについて、一市民としても、また、教育の現場としてもその点を踏まえて、子どもたちの教育に今後当たっていかなければいけないと思っております。

本日は「グローバル社会で活躍する人材の育成について」というテーマで御協議をいただくことになっております。

子どもたちを取り巻く社会環境は、日に日に急激に大きく変化をしております。中でも、訪日外国人観光客が東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて増加するだろうと思っております。これはオリンピックを見に来るだけではなくて、やはり日本や日本文化を見に来るといったニュアンスもありますので、我々として大きく受けとめていかなければいけないと思っております。

グローバル化が進んでいる中であって、やはり根本的な部分は、まず外国人と会話ができることが非常に大きな武器になるだろうと思っております。特に一般的に各国で使われている英語を中心とした語学力、コミュニケーション能力が今後は非常に必要になっていくだろうと思っております。また、国分寺市内においても外国籍の市民は 2,000 人を超えており、外国籍の生徒も増えてきている状況です。外国籍の方には日本語を使っただくことはもちろんなのですが、こちらから会話をする際は、やはり英語を使うことは非常に重要なことであろうと思っております。

日本そのものを見に来ると先ほど申し上げましたが、国分寺市には魅力がたくさんあります。歴史を初めとして文化財、史跡、そして科学のまちでもありますので、ロケットや新幹線のお話もしっかりとできる人がいなければいけないと思っております。そういうものをこれから育ていく子どもたちにぜひ身につけていただいて、国分寺市だけではなく、世界で活躍できる人材を育てていきたいと思っております。本日は委員の皆様には幅広い形で御意見をいただければと思っております。

初めは英語に関する語学力について協議を進めますが、その後は少しお話を広げて、本来のテーマに沿ってお話をさせていただければと思っております。率直な御感想や御意見をいただければありがたいと思っております。よろしくお願いたします。

それではまず、説明をお願いします。

○古屋教育長 私からは、広い視点からこれからの教育に求められることについて少しお話をさせていただきますと思っております。

本日のテーマは「グローバル社会で活躍する人材の育成について」ですが、これからの社会はグローバル化の急速な展開というところで、特に最近では人工知能、いわゆる AI が人間に代わって様々な判断を行う、あるいは身近なものがインターネット経由で最適化される、というような時代になってきていると思います。そのことによって、社会や生活が大きく変わっていくのではないかと予測もあるところでございます。例えば人工知能の急速な進展が人間の職業を奪うのではないかと、あるいは今学校で教えられていることは、時代が変化したらもう通用しなくなるのではないかと声もあります。そして、それを裏づけるような未来予測も学者の方から発表されているという現状もあるようでございます。

しかし、たとえ人工知能がいかに進化しようとも、AI が行っていることは目的の中で処理するということです。多様な文脈が複雑に絡んでいる場面や状況をしっかりと理解して、自分の頭で考えて目的を設定する、あるいは様々な情報を選別する中で、考えをまとめて相手にふさわしい表現をする、あるいは答えのない課題をどのように解決していくか、そのような点はやはり人間が持っている強みであると思われ、そのことが人間らしさとも言えるのではないかと考えております。このような時代だからこそ、子どもたちには社会の変化を前向きに捉えて、AI を

積極的に活用していく力、自分たちの社会や生活を人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていく力、そして新たな未来の姿を構想し実現していく力を成長の中で育むことが、これからの教育に求められていることではないかと考えております。

本日のテーマが大きなテーマですので、大きな視点からお話をさせていただきましたが、そのようなこれからの教育に求められることを踏まえて、ぜひ委員の皆様方からも、様々な御意見をいただけたらと思っております。その1つとして、先ほど市長のお話にあったように、コミュニケーションツールの1つであります英語をまずは焦点化しながら、国分寺市の外国語教育の現状についての資料も用意させていただきましたので、その点から御説明をさせていただけたらと思います。その後、また幅広く私も意見を述べさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

外国語教育の現状につきましては、統括指導主事から説明をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○三澤統括指導主事 外国語教育の現状について説明をさせていただきます。

資料1を御覧ください。「グローバル社会で活躍する人材の育成を目指して」と銘打っております。平成32年度より新学習指導要領の全面実施が始まります。主体的・対話的で深い学び、社会に開かれた教育課程、カリキュラムマネジメントなどのキーワードが示される中で、小学校外国語教育の教科化もその1つに挙げられております。外国語科の導入につきましては、新学習指導要領外国語編においてその趣旨が示されております。趣旨は2点ございまして、1点はグローバル化の急速な発展、もう1点は小学校と中学校の外国語教育の円滑な接続です。グローバル化の急速な発展につきましては、生涯にわたる様々な場面でのコミュニケーション能力の必要性とその向上、そして小学校と中学校の外国語教育の円滑な接続につきましては、聞くこと、話すことに加えて、読むこと、書くことなど小学校の高学年から発達の段階に応じて、総合的、系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視したものであります。

現行の学習指導要領におきましては、小学校5、6年生で外国語活動を実施しております。新学習指導要領におきましては、小学校3、4年生が外国語活動、5、6年生が外国語科となります。授業時数も増えて、小学校3、4年生の外国語活動では年間35単位時間、5、6年生では年間70単位時間の実施となります。平成30年度及び31年度につきましては、本格実施までの移行措置期間となりまして、小学校3、4年生は15単位時間、5、6年生は50単位時間実施することになります。この時間数については、平成32年度の本格実施にそれぞれの学年で対応できるように、移行措置期間で最低限学習しておく内容に合わせた時間数となります。このことを受け、東京都教育委員会では、「東京都教育ビジョン（第三次 一部改定）」の取組の方向性2「世界で活躍できる人材の育成」におきまして、主要施策3として「『使える英語』を習得させる実践的教育の推進」を掲げております。

その主な取組について6点挙げさせていただきました。「英語教育推進地域事業」、「英語教育推進リーダーの配置」、「3・4年生の外国語活動の導入に向けた教材の作成」、「TOKYO GLOBAL GATEWAYの開設」、「英語教育を推進する教員の採用」及び「教員研修の実施」です。

次に、国分寺市の取組について御紹介させていただきます。現在、国分寺市の公立小学校では、1年生から4年生までは英語活動、5、6年生は外国語活動を実施しております。授業時数は、1、2年生は年間10単位時間、3、4年生は年間15単位時間、5、6年生は年間35単位時間となっております。5、6年生は学習指導要領によりますが、1年生から4年生の英語活動は国分寺市独自の取組となっております。また、英語科の教員免許状を取得している小学校教諭は、国分寺市立小学校10校の中で7人となっております。

続いて、平成29年度の取組について御説明いたします。4点ございまして。1点目はALTの配置です。先ほど御紹介いたしました各学年での実施時数分のALTを配置しております。現在は学級担任とALTにより、英語活動または外国語活動が行われております。

2点目は、英語教育推進リーダーの配置です。この取組は平成29年度の東京都教育委員会の事業を活用しているものでございます。本日は、英語教育推進リーダーである第四小学校の渡辺大輔主任教諭が出席しておりますので、取組内容等につきましては、後ほど御本人から御説明をいただきます。

3点目は授業力向上研修会の実施です。夏季休業中に実施しております教員研修において、第一中学校の英語科、相沢秀和指導教諭を講師として「9年間を通した外国語教育」というテーマで研修を行いました。中学校での英語科の現状とともに小学校との接続について、小学校の外国語教育に期待するところをお話いただきました。また、ALTの派遣をお願いしております株式会社ボーダーリンクに依頼して、2月に研修を2回行いました。外国語活動の指導力の向上を目指して、授業の組立て方や実践的な指導方法、主担当とALTとの役割の確認等を教員が体験し、主体的に学ぶことができ、明日から役立つ内容の研修でした。

4点目は、外国語教育連絡会の実施です。市内10校から外国語教育担当の教員に参加いただき、英語教育推進リーダーによる模範授業の参観と移行措置期間の対応等について、英語教育推進リーダーより話がありました。市内の全校で情報共有を図ることができました。

次に成果と課題です。成果は外国語教育の先行実施に向けて、学校全体の意識の向上を図ることができたことであると考えます。一方、課題は教員の指導力の向上、平成30年度に向けての授業時数の確保、小中学校の学習内容・指導方法等の円滑な接続と考えております。

最後に、平成30年度取組についてです。7点ございます。1点目はALTの配置です。平成29年度に引き続きALTを配置いたします。配置時数の増減はなく現状と同じです。

2点目は、TOKYO GLOBAL GATEWAYの活用です。これは来年2月21日、22日に行います。小学校5年生の全児童が参加して、昼食を挟んだ午前と午後の合計4時間の予定です。事前及び事後活動も含めると合計8時間の予定です。擬似的な海外での生活体験を通して英語を実践的に使う経験が、児童の英語を学習するためのモチベーションを高めることにつながることを期待しております。

3点目は、文部科学省英語教育推進リーダー研修会への教員の派遣です。小中学校で各1人を推薦する予定です。研修会後に、小学校から1人ずつ、中学校は英語科の教員全員を対象にして、還元研修を実施する予定です。

4点目は、英語専科教員の配置です。これは都の事業ですが国分寺市においても活用をしていく予定です。

5点目は、授業力向上研修会の実施です。これは夏季休業等を利用して実施を図ってまいりたいと考えております。

6点目は、外国語教育推進委員会の設置です。平成29年度は1回でしたが、平成30年度は学期に1回、年間3回実施する予定です。

7点目は、授業時数の増加です。平成30年度は移行措置期間ではありますが、国分寺市においては新学習指導要領が全面実施される平成32年度を見据えた時間数で授業を実施いたします。小学校1、2年生は今までどおり英語活動を10単位時間、小学校3、4年生は外国語活動を20単位時間増の35単位時間、小学校5、6年生は20単位時間から35単位時間増の55単位時間から70単位時間実施する予定です。なお、移行期間の2年目に当たります平成31年度につきましては、70単位時間の実施を考えております。

○古屋教育長 渡辺主任教諭からも、活動の様子を御説明ください。

○渡辺主任教諭 平成29年度取組内容についてお話をさせていただきます。

私はこの1年間英語教育推進リーダーとして教員の指導力向上や児童の英語力定着、英語をより好きになってもらうことを目標として活動してまいりました。1学期は各校の先生方に指導や助言を行うことで、それぞれの学校の状況把握を行いました。2学期は各校のニーズに合わせて研修形態を選んでいただき、研修会や授業参観を行いました。研修会では外国語教育がどのように変わっていくかという話に加え、英語の授業を体感していただくために、模擬授業やワーク

ショップ形式の研修も行いました。参加して下さった先生方からは、やってみると意外に楽しい、そんなに難しい英語を使わなくてもいいのか、などの感想をいただきました。児童はもちろん、先生方に外国語授業の楽しさを知っていただけたことは大きな成果だったと言えます。3学期は4月に迫る先行実施及び移行措置に向けて、授業のイメージを作っていただくためにALTとの模範授業を行っております。先生方に授業の基礎・基本や1時間の流れなどを目で見て体感してもらうことでイメージをつくってもらえればと思っております。

最後に、国分寺市の外国語教育についての成果と課題についてお話します。成果は資料にもあるとおり、教員1人1人の意識の改革と向上を図ることができたことです。1年間の指導を通して、1学期はあまり質問等がなかったのですが、2学期、3学期と進むにつれて、先生方からたくさんの質問をいただき、ともに授業を作っていくことができました。課題については、指導方法、平成30年度に新しくなる教材等の使い方、教材の共有についてであり、他教科・他領域と同様に、指導方法及び内容について考えていただくことがこの課題の改善への近道であると思っております。今後も国分寺市の子どもたちのために、より英語を好きになってもらうための指導を考えていきたいと思っております。

○井澤市長 教育長、統括指導主事そして渡辺主任教諭からお話がありました。委員の方からこの説明を聞いたうえで御意見を賜れればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○高橋委員 子どもたちに実際に外国語、英語を体験し、お互いにコミュニケーションする機会をできるだけ与えて、外国語あるいは英語を学ぶことはすごく楽しいことであるということをもっと味わってもらいたいと思っております。また、英語を教えることに抵抗感がある先生もいらっしゃるかもしれませんが、研修等を通して楽しいと感じてくださったというお話が先ほど渡辺主任教諭からありました。先生にとっても子どもたちにとっても、言葉を通していろいろと人と分かり合うことができ、それがまた他の人とのつながりになることは楽しいということがまず基本にあると思っております。そのことは非常に大事であると思っております。その上で、平成30年度に向けての取組の中で、TOKYO GLOBAL GATEWAYの活用について少し説明していただきました。TOKYO GLOBAL GATEWAYでは、子どもたちが英語で1日生活して様々なことをまず体感してもらうということになるのだろうと思っております。また、8時間分の授業時数を事前事後の時間も含めて予定しているというお話でした。もう少し具体的なことをお話しいただけますか。

○三澤統括指導主事 TOKYO GLOBAL GATEWAYは様々なエリアで体験的な活動を通して外国語を学んでいく都内の施設です。様々な場面で実際に英語を使ってコミュニケーション等を行うことで、子どもたちが実際の英語を肌で感じ、英語の良さを実感できることを主目的としております。新しい学習指導要領の狙いの中には、英語そのものを学ぶだけではなく国際的な理解や、英語を使って何ができるかというそのものの理解もありますので、このような点がTOKYO GLOBAL GATEWAYに参加する大きな意義であると考えております。

○中島学務課長 TOKYO GLOBAL GATEWAYでの活動について、現在考えている点を少し補足させていただきます。

2日間に分けて全校がこの施設で英語を体験することになっております。現在、学校で考えているのが、幾つかのグループに分かれ外国籍の方に直接ついていただいて、英語で活動をしていくと聞いております。同じ学校の子どもたち同士だと日本語で体験そのものもしてしまい感想も日本語で話してしまうことが多くなるということもありまして、ほかの学校の子どもとグループをつくって体験活動ができるように考えていると聞いております。

○井澤市長 つまり日本語を一切使わずに、その場に行ったら英語のみを使うということですか。

○中島学務課長 こちらの施設では、日本語は一切使わないこととなっております。英語で自分たちの思いも伝えるし、英語で会話をしてコミュニケーションをとる体験をします。初めて実

際の英語に触れることができる施設になっております。

○福澤指導主事 今、学務課長からお話がありました。今回全体で8時間を予定しているという話をしました。事前事後の学習を各2時間、実際に現地で活動する時間は4時間と考えております。施設としては例えばレストランなどのお店があり、海外の様子が再現されています。その中で、少人数のグループをつくり、グループに課題が与えられ、その課題を英語を使ってクリアする体験を通じて、英語が使える実感を味わって帰ってくるという施設になっております。また、国分寺市の1つの特徴かと思うのですが、お昼を挟むのでその時間にも外国の方と一緒にいていただいて、昼食を食べながらもコミュニケーションを図れるように、現在計画を立てております。

○高橋委員 子どもたちにとって、自分自身に対して一種の素晴らしいショックを与えられる経験になりますし、英語が通じることで新たにこのようなことも伝えたいという思いからその次の学びにつながっていき、素晴らしいと思います。東京都でそのような施設を用意しているので活用しない手はないと思いますが、結構お金がかかるような気がいたします。これは平成30年度の国分寺市の予算にしっかりと組み込まれていて、施設の利用は実現できるのでしょうか。

○水越政策部長 予算の関係ですので、私からお答えさせていただきます。予算ということでございますので、議会での議決が前提とはなりますが、TOKYO GLOBAL GATEWAYでの体験については、全校で実施できるように、体験型英語学習施設利用支援という形で事業を予算化しております。1号議案として一般会計の予算の中に含めておりますので、担当課とこの予算を全て通過すべく努力してまいりたいと考えております。

○高橋委員 どうぞよろしくお願いたします。

○古屋教育長 TOKYO GLOBAL GATEWAYの活用は、小学校5年生を対象とするということで検討をしております。今後、小学校5、6年生では外国語科という教科になり、小学校5年生はちょうど教科化になった1年目になります。教科になるということは、先ほど説明があったように聞く、話す、読む、書くという4技能が求められます。そのような学びを深めていく中で、やはり英語をどのように使うか、また、使うことが楽しいということをも十分に味わうことによってコミュニケーションツールとして使うことの楽しさを体験できるという目的を持ってこの活動が導入できればと検討しております。教科化したから学ぶべきことがたくさんできたという厳しさよりも、冒頭からお話があるように英語を好きになる、英語は楽しいということをも十分に味わってほしいと願っております。

○井澤市長 子どもたちが日本にいながら海外旅行に行けるわけですね。自分たちだけで動くかということになりますので、いい刺激になるのではないかと思います。引き続き応援していきたいと思っております。

○佐久間委員 TOKYO GLOBAL GATEWAYの中では日本語を使えないということと、ふだん一緒にいるお友達とも離れ離れになるということで、英語以前にそもそもコミュニケーションに不安を感じるお子さんも多いのではないかと思います。そのことに関しては事前にどのような対応をされるのでしょうか。

○三澤統括指導主事 英語以前に、子どもたちのももとの人間関係やコミュニケーションの力は、普段からこれまで行っているように学校として指導をしているはずで、英語を使ういい機会ですので、学校としても普段の学習の中で、子どもに1つの目標を持たせながら、この新しいツールを用いてほかの学校の子たちと一緒に、共同して物事に取り組めるような場づくりを事前にしていく予定があります。

○松浦学校指導課長 補足説明をいたします。当日の4時間のスケジュールは、最初に顔合わせの会があります。ここでは日本語も使いながら新しいグループをつくって、ネイティブの方も日本語は使えますので、まずコミュニケーションを一定時間図ります。次にアトラクションエリアが約1時間のコースです。エアポートゾーンやホテルゾーン、トラベルゾーン等があり、例えばもし空港に行ったら、ホテルに行ったらどのようなやりとりになるという様々な場面の体験が

あります。その後の2時間くらいで、アクティブイマージョンエリアに行きます。例えば日本の文化を英語で学ぶ、自分のまちのことを英語で紹介するなど幾つかのプログラムがあって、それを2つから3つぐらい選択して、英語を使いながらのコミュニケーションがあります。施設に行ったらすぐグループに分けられて「はい、英語で話してください。」と言われてしまったら、私ももう行く前からお腹が痛くなってしまうと思いますが、施設に行ったら日本語で少し遊べるようなミニゲームを行って、必ずコミュニケーションを図る時間をとってから英語になるので、そのような不安は大分解消されるのではないかと考えております。

○佐久間委員　ありがとうございます。私も少し不安が解消されました。想像して、どうなってしまうのだろうと実は思っていたところでした。そして、ちょっと困っているお子さんがいたら、やはりインストラクターの方がさりげなく誘導をしてくれて、仲間に入れるようにというような配慮はしていただけるのでしょうか。

○松浦学校指導課長　教員も一緒に回りますし、グループについているスタッフ以外にも多くのスタッフがおります。今回は、2日間に分けたうえで2日間とも国分寺市の貸し切りになっております。他の一般の方はいませんので、全部のスタッフが国分寺市の子どもたちのためにサポートをしていただきます。先ほどお話しした自分のまちのことを英語で紹介するプログラムも、国分寺市のことに限定してできるようになっております。せっかく国分寺市が全校で施設を利用するので、万全の体制でやってくさるというお話もできております。実際にいろいろな不安も出てくると思いますので、それを事前に協議しながら、東京都がこのような施設を設置するのは初めてのことで、課題を出しながら進めていきたいと思っております。

○富山委員　本当に今お話を伺いまして、英語もさることながら話したいというモチベーションや内容を持っていないとなかなか話ができないと思います。しかし、国分寺市の貸し切りになると子どもたちは国分寺市の良さや素晴らしさをあらかじめ勉強していますから、何か得意なことを言えといえ、先ほど市長からありましたように、歴史のこと、宇宙のこと、自分の学校のことなどの身近な体験がすぐに浮かんでそれが表現・表出されていきます。このような部分で、子どもたちにとって非常にコミュニケーションを図りやすい土壌、地盤がこちらのイングリッシュサロンの中にあるというのはとても素晴らしいと思いますし、ぜひこれを成功させたいと思いました。

○井澤市長　この取組については国分寺市は先駆的なほうになりますか。

○松浦学校指導課長　東京都内の市で構成する管理指導室課長会の中でも話題にしましたが、全校で行くというところはほとんどありません。市内のある学年を全部対象にして行こう、場合によっては貸し切りにしてそのような取組をしようというところはまずありませんので、かなり先駆的だと思います。東京都からももしそのような方法でうまくいけばほかにも紹介したいという話も伺っておりますので、東京都からも注目されている事業でございます。

○井澤市長　2日間にわたってとおっしゃいましたが、2日間というのは1日4時間で2日間という意味ですか。宿泊を伴うということですか。そうではなくて、2つに分けて行くということですか。

○松浦学校指導課長　貸し切りにするときは大体500人ぐらいという話がありましたので、全員が一度にその施設には入れません。国分寺市の5年生の児童数を考えると、2つに分けて行くことが可能であるということで2グループとしました。

○井澤市長　現地で活動する時間は2時間ずつで4時間とおっしゃっていました。あとの2時間ずつはどこで行うのですか。

○松浦学校指導課長　事前に学校で、実際に現地へ行ったら英語でこのようなことを紹介する学習の時間が2時間、事後に現地での体験を自分でまとめてみる、再度表現してみるという時間が2時間、現地で4時間の合計8時間になります。

○戸塚委員　今お話に出ていたTOKYO GLOBAL GATEWAYは、もっぱら英語の4技能のうちの聞くこと、話すことに関するものではないかという気がいたします。これから

小学校で本格的に英語教育をするに際して、それ以外の読むこと、書くことについての国分寺市の英語教育の取組についてちょっとお尋ねをしたいと思います。

○渡辺主任教諭　読む、書くというと一般的には、例えば「リンゴ」と言って「appleと書きなさい」という指導を思い浮かべるかと思います。しかし、提示されている内容としては、文字を見て写す、なぞるといったレベルに限定をされていますので、国分寺市といたしましてもまずは小学校3、4年生でしっかり話す、聞くところを積み重ねていき、小学校5、6年生で耳で受け入れた情報を実際を書くことにつなげていくという流れで、現在は考えております。

○高橋委員　少し話の視点を変えますが、本日のテーマが「グローバル社会で活躍する人材の育成について」ということで、将来、自分がいろいろな国に出ていくこともありますし、日本にいて日本にきた様々な国の人たちと、1つのチームを組んで仕事をする等いろいろな活動を行うこともあると思います。グローバル社会という視点で見えていくと、必ずしも外国に出ていくことだけではない活躍の場が今後ますます増えてくると思います。平成30年1月1日現在で2,088人の外国籍の方が国分寺市に住民登録をしていると聞いております。このところ急速に国分寺市にお住まいになる外国籍の方が増えて、この1年間で約200人増加したということを知り、私自身、国分寺市にも外国籍の方が多くいらっしゃることに、さらにこの短期間で急激に増えていることを認識しました。つまり、国分寺市の子どもたちが、国分寺市にいても様々なところで外国人の方と出会うチャンスがあり、コミュニケーションを外国人が求めることや、子どもたちが「あっ、ちょっとこんなことを聞いてみたい」と思うこと、「どこの国の方ですか」と聞けるだけでも嬉しく思うことなど、多分いろいろなことが起こってくるのではないかと思います。

それから、小学校、中学校での授業の中で国分寺市等にお住まいになっている外国人の方をお招きし、英語もしくはその方のそれぞれのネイティブな言葉で最初の挨拶などをしていただくなど、様々な言葉や文化を学ぶ機会があると思います。相手が喜んでいて、困っている、このようなことを知りたがっているということは、言葉そのものが通じなくても身ぶりなどで感じることができます。コミュニケーションは言葉だけに頼らなくても、まず知りたい、伝えたいという気持ちが出発点なのだとすることを体験する機会はいくつもあると思います。小中学校の授業時間枠の中で、どのくらいの時間数で学校に外国の方が来てくださって、どのような活動をして、子どもたちにとってどのような効果があるのかについてお伺いしたいと思います。

○三澤統括指導主事　国分寺市の小中学校では、全校それぞれ外国の方を講師に招いた学習が展開されております。総合的な学習の時間を利用した国際交流が大きく、そのほかにも生活科や音楽、部活動等で交流する場面も多いようです。来てくださっている外国籍の方の国籍はカンボジア、モンゴル、ウズベキスタン、イラン、中国、韓国、ベトナム、トルコなど様々です。それぞれの国の歌や踊りの体験、英語を活用した交流、サッカー等のスポーツを通じた交流など体験型が多く行われております。また、国分寺市の子どもたちから日本の習字や羽根つき等の日本文化をお伝えすることも、活動としてはされているようです。

そして、その講師は国際協会、大学の留学生、日本語学校の方々をお願いし、様々な方々を紹介して交流を行っております。子どもたちにとっても、海外の国の様々な文化に触れる中で、体験を通じた活動が充実してきていると思っております。

○井澤市長　高橋委員は国際協会でも御活動をいただいておりますので、その観点でも御指導をいただいているのですが、実態としていろいろ感じられる部分もあるのではないかと思いますので、いかがでしょうか。

○高橋委員　国際協会は教育委員の1人が役員になるという形になっており、学校と国際協会がいろいろなコネクションを密に持っているという形をとっていると思います。特にここ数年、外国人の中でこの日にこの学校で話してくれたり、指導をしてくれたりといったようなかわりを持つ方がいないかということの1つの窓口には、国際協会がなっていると思っております。

今お話がありましたように、本当にたくさんの国籍の方がいらっしゃるのです、私はそのような

中で、すごくきれいな英語を話す、いわゆる英語ルーツのネイティブの方だけが学校へいらっしやるのではなくて、英語はたくさんの国の方がコミュニケーションツールとして使っていることを子どもたちに知ってもらおうということが大事だと思います。えてして私の世代ですと、きれいな英語が話せない、発音がよくないという理由で英語を話すことを躊躇することがある世代であるようですが、それよりも、ともかくこういうことを伝えたい、こんなことが知りたいという気持ちがあれば、多少の幅の中で通じるものだということ、英語はいろいろな幅の中で英語なのだということを体験することも、子どもたちが英語に対して話したり聞いたりするときの垣根を低くしてくださるのかなという気がしております。

国分寺市に日本国籍の住民の数に対して2,088人の外国籍の方がいらっしやるというのは、近隣市の中では多いか少ないかちょっと私はわかりません。外国籍の方が多くいらっしやるということのをうまく生かし、また外国籍の方も日本に住んでいるからには知りたいというときに、学校は外国籍の方にとって、非常に良い日本の生活に触れる場だと思います。ビジネスの場だといろいろなことがさらに別のハードルになるかもしれませんが、学校であればお互いに通じ合うということで、多分来ていただきやすいと思います。ただ、外国籍の方を学校にお招きするときにはどのような配慮をして来てもらいやすくするかなど、検討をする必要もあると思います。

少なくとも言葉が通じるかどうかよりも、まず日本語でもいいから何か困っている人がいたら「どうしましたか」と声をかけて、相手のお顔を見れば、何か助けてくれそうかなどいろいろなことをお互いに察し合えるので、気軽に日本人ではない方にも、同じ人としてともかく心を通じ合わせようという核になる気持ちを子どもたちに持ってもらいたいと思っております。

○井澤市長 まさに多文化共生社会ということだと思います。今、英語を通じてということでコミュニケーションの方法を語学に限定しているのですが、今お話が出たようにいろいろな形で交流ができると思います。伝える気持ちが先にあってそれに伴って語学が必要になってくると考えられると思っております。これから外国の方へのおもてなしもしていくことになりますので、英語だけに限らず、いろいろな形で様々な外国の方と、外国に行ったときではなくて、外国の方に来ていただく、また一緒に暮らしていく中で、触れ合っていくことについてお話をさせていただければいいと思っておりますので少し範囲を広げてお話をさせていただければと思います。

○富山委員 今、小学校、中学校で様々な国の人たちと出会って、交流をしているというお話があったのですが、それがとても大事であり、今後も大事だなとも思います。外国の方が日本に来られると、例えば自動販売機のある国は非常に少ないので自動販売機の使い方がわかりません。トイレに入るとウォシュレットは使ったことがなく、これは何だという、びっくりするような話もあります。先日、小平市から国分寺市に引っ越してきた一橋大学の外国人学生から、ごみの分け方は本当にこれでいいのですかと聞かれました。ごみの出し方1つも市によって若干違いますので、そのような1つ1つの生活の部分が留学生や外国の方にとっては大変難しいことがあります。そのような部分を体験している外国の方が学校に来てくれてそのことを話してくれるということが、その人を通して相手の国の生活や文化が、テレビや本にはない部分でまきにつながってくるのです。それだけではなくて、そのような交流をする中で国分寺市は何が素晴らしいのか、何が有名なのかと問われます。そうすると、国分寺市の良さや素晴らしさを日本語で、相手が英語だったらできれば英語でということを考えて判断して発信してコミュニケーションを図っていかなければいけないし、体験することを通して相手の自動販売機のない国は一体どうしているのだろうか、コンビニがないところで一体どうしているのだろうかと聞いてみると、全く違った生活が外国にはあるわけです。想像もしていないような生活が外国にあるということがわかっていきます。同じところと違うところがわかってきた上で、それを軽蔑するのではなくて、その違いを乗り越えてともに生きていくという気持ちが出てきます。この交流がたった1時間かもしれないけれども、その中で自分や国分寺市の素晴らしさを伝えていく、違ったものを受け入れて尊重していく、そして違いを乗り越えてともに生きていける人間が交流しながら生まれてくるのです。これは本当に素晴らしいし、そのような中で私もやはり英語を話してみたい、話すの

だという気持ちがモチベーションになってくる気がいたします。そのような面では、先ほど三澤統括指導主事のおっしゃった国際交流、それから国際協会の支援を得ながら、毎年1年生が1回やれば多分6か国ぐらい小学校でできるわけです。それは子どもたちがグローバル社会で生きていくための大事な土壌を培ってくれるものにつながるのではないかと思います。

○井澤市長 そのような場を少しでも増やしていくこと、物おじせずにとにかくやってみることが必要であると思います。本日は、いろいろな部署から管理職の方が来ておられるので、それぞれの部署で本日のテーマである、グローバル社会で活躍する人材の育成に関して、予算を伴わない話で何か考えられることがあったら、一言ずつお願いします。このようなことだったら受け入れられるなど、子どもに限定しなくて構いません。例えばふるさと文化財課で、今、小学校の子どもたちに史跡地で勉強させたりしていますよね。そのようなときに英語を使わせる、外国籍の方がいたら何かやってあげるなど、何か考えられませんか。

○高杉ふるさと文化財課長 今、校外学習に来ていただいておりますので、その活用という部分もあると思います。また、一般的にこれから海外の方が史跡地を訪れるきっかけも多くなるでしょうから、そのようなところで仕掛けをつくるということもあると思っております。まだ具体的なものは出ておりませんが、そのようなことを考えております。

○井澤市長 ぜひ具体的に考えてもらえたらと思います。

○古屋教育長 子どもの史跡ガイドも良いと思います。

○井澤市長 子どもの史跡ガイドはいいかもしれないですね。

○高杉ふるさと文化財課長 子どもたちに理解をしてもらえれば、十分に実現性があると思います。

○井澤市長 図書館課長は、どのような取組ができそうですか。

○藤川図書館課長 現在、図書館には、英訳された絵本、原書もしくは英語化されている日本の絵本を置いております。ほかにはいわゆるペーパーノベルズは本多図書館を中心に300冊ぐらいは置いてあります。まだ取り入れていないことでは、子どもたちを対象におはなし会を職員やボランティアのグループが行っておりますが、図書館ボランティアを募集していると、英語でおはなし会ができるスタッフに時々声をかけてもらうことがあります。少し本格的にきちんとした席を設けて、小さい子どもたちを対象に英語でおはなし会をすることも考えられると思います。

○井澤市長 スポーツ振興課長、いかがでしょうか。

○木村スポーツ振興課長 国分寺市では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関する取組方針というものを平成29年6月1日に決定しております。この中で国際交流・おもてなしが1つの大きなテーマとなっております。これを達成するためには、教育部局だけでなく、例えば協働コミュニティ課と連携しながら対応していきたいと考えております。

また、実際に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機にして、東京都内を訪れる外国人の方が多くなることが予測されておりますので、国分寺市にも来ていただけるように観光部門とも連携していきたいと考えております。

○井澤市長 やはり小学校5、6年生までの子どもたちが英語、外国語を使えるようになって、それを発揮する場所をたくさんつくってあげることが市として必要なことであると思っております。文化と人権課長、いかがでしょうか。

○沢柳文化と人権課長 文化というと様々な面がございまして、例えば平成29年度から第2次文化振興計画を進めております。この中の学習機会の提供というところの中で、例えばこの文化をつなげるというところで、伝統文化子ども教室という教室も開催しております。例えば、このような機会を捉えて外国人の方にも伝統文化に触れていただくような取組も考えられると思います。

○井澤市長 社会教育課長、いかがでしょうか。

○千葉社会教育課長 社会教育課では、地域で活躍する子どもたちを育てるということで事業を展開させていただいております。その事業の中で、例えば英語を使う内容の発表会を取り入れ

る、また今は一部ですが、放課後子どもプランの中で実施委員の方たちに英語教室をやっていた
だいていることもございますので、そのようなところから1つ1つ手がつけられればと考えてお
ります。

○井澤市長 今、現場でそれぞれできることがあるかと思って急に質問しましたが、このこと
も踏まえて、委員の皆さんには、このようなことを行ってみたらどうかというお話をいただけれ
ばありがたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○佐久間委員 日本人としてのアイデンティティを育むという観点から少しお話をさせていた
だきたいと思っております。先ほど、外国の方を講師に招いた学習を各学校で行っているという
ことから、外国の方々との交流の大切さということにお話が及んでおまして、外国の文化を知
り、日本の文化を外国の方に紹介するということは、本当に子どもたちにとって貴重な体験にな
ると思っております。グローバル化に伴って、また東京 2020 オリンピック・パラリンピックを
前に、日本の文化は外国の方からこれまで以上に注目されておりますとともに、国内でも日本文
化を見直す動きがとても盛んになってきていると思えます。

また、グローバル社会で活躍する人材の育成についてということで、内閣府、文部科学省、東
京都教育委員会それぞれから出されている文書を見ましても、自分とは異なる国の文化や歴史を
尊重し、国際社会で活躍する日本人の育成を図るための大前提として、自らの国や地域の伝統や
文化についての理解を深め、尊重する態度を身につけることが重要であるということが、いづれ
にも記載をされております。そして、現行の学習指導要領にも日本の伝統や文化については、既
に取り入れられておまして、市内の各学校においても様々な機会を捉えて、学習がなされてき
ていることと思えます。運動会や展覧会、学習発表会、周年行事など学校に伺って拝見しており
ますと、それぞれ学校で工夫して日本のものを取り入れており、それが定着していると感じてお
ります。例えば、展覧会で申しますと、自由なテーマで取り組んでいる作品の中に、和のものが
大変増えてきております。子どもたちの中に和の心が育まれていることが感じられて嬉しく思っ
ております。

そこで、伺ってみたいことが2点あります。1点目は、これまで学校で行われてきた日本の伝
統や文化についての取組で、特に特徴的なものや、やってみてよかったものがありましたら、御
紹介いただけるとありがたいと思えます。

○三澤統括指導主事 市立の各学校では、自国の文化を学ぶ機会はたくさん作られており、総
合的な学習の時間や生活科など様々な授業で行われております。第九小学校は伝統文化の育成事
業の対象校で様々な活動を行っております。例えば落語の鑑賞、お茶の入れ方、三味線の体験、
昔遊び、絵手紙、折り紙などを行っております。みそや豆腐を作ることで食文化を学ぶ活動に関
しては、第九小学校のみならず各学校で行われております。

さらに、第三小学校や第九小学校におきましては、「和心クラブ」という教育課程外のクラブ
活動があります。例えば着付けや生け花を行う、抹茶をたてるという活動を行っております。外
国の方を講師に招いた学習を1つの発表の場、実践の場とする活動も踏まえると、本当に多岐に
わたって本市の子どもたちが活動を行っているといえます。先ほど佐久間委員からお話しいた
だいた自国の文化を多様性の中の1つとして学んでいるところであると考えます。

○原指導主事 市内の小中学校で和楽器を音楽の授業で扱っております。箏、または三味線、
学校によっては和太鼓を中学校であれば3年間のうちに1つ以上の楽器の奏法を学びます。また
鑑賞の授業では雅楽等を鑑賞しています。このような取組が日本の文化を学ぶ、そして海外の方
たちに紹介する取組になると考えます。

○佐久間委員 今、御紹介いただいた伝統文化もとてもたくさんあって素晴らしいと思ってお
ります。第四小学校の取組も御紹介いただけるとありがたいと思えます。

○渡辺主任教諭 第四小学校では、例年、秋ごろに佐久間先生を初め地域の方々に御協力いた
だいて、約 10 個の伝統文化体験をグループに分かれて行っております。毎回子どもたちからす
ごく良かったという感想を聞いております。教科書や本、パソコンから勉強するよりも、やはり

自分で体験することで伝統文化の良さを体験することができたと思います。

それに加えて、外国語活動の中で、現在、東京都の教材で「Welcome to Tokyo」というものがございます。その中でも日本の伝統文化を外国人の方に伝えようというレッスン内容が多くあります。そちらもあわせて子どもたちには日本の伝統文化をより愛して、ほかの方々に伝えられるということをも身につけていってほしいと考えております。

○佐久間委員 とても素晴らしい教育が行われていると思います。ありがとうございます。今、渡辺主任教諭から御紹介いただきましたが、私も第四小学校で剣詩舞の講師として関わらせていただいております。毎年第四小学校の6年生がとても熱心に興味を持って体験してくれております。1時間半という限られた時間の中で、私の場合は剣詩舞を教えますが、詩の意味をわかった上で、私を見ながら課題曲の1曲を扇子と刀を使って、授業の終わりにはみんなが舞うことができるというところまでやっております。また、平成28年度の学習発表会の際には、オリンピック・パラリンピックと日本の伝統文化がともに並行して、子ども主導で舞台発表が行われて、本当に大変素晴らしい発表であったと思っております。これからも学校で素晴らしい伝統文化教育を行うことでアイデンティティを育てていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

もう1点伺いますが、新学習指導要領においても、日本の伝統や文化については引き続き重視されるということ踏まえまして、国分寺市教育委員会として新たに取り組んでみようという計画がもしありましたら教えてください。

○三澤統括指導主事 先ほど御紹介申し上げましたように、本市におきましてはたくさんの活動が位置づいており、ここは大事にしていきたいと考えております。先ほど、佐久間委員からもお話がありましたように、オリンピック・パラリンピック等の取組をこれからも充実してまいりたいと考えております。

○古屋教育長 今の件ですが、やはり国分寺市としては国分寺市ならではの教育をこれからしっかりと考えていかななくてはいけないと思います。先ほど御紹介させていただいたように、文化団体の方々には数多く御協力をいただいている、子どもの貴重な体験の場となっています。そのような場をこれからも充実をさせていかななくてはいけないと思われ、また、史跡がある国分寺市ですので、そのような歴史をしっかりと学んでいくことも、日本の伝統文化の理解教育の1つとして、しっかりと位置づけていかななくてはいけないと考えております。より充実をさせていきたいと思っております。

○富山委員 国分寺市の良さや日本の伝統文化の良さを体験した際に、それを相手に日本語で伝えるのも良いですが、英語で伝えても良いのだろう、また英語で伝えられるといいという視点があります。例えば英語の授業中に国分寺市の良さを英語で書いてみたり、暗記していなくても口頭で発表できたりする取組が考えられます。発表する相手は日本人でも外国の人でもいいと思います。英語の授業での取組、外国人や留学生と交流する中で国分寺市の良さや日本の伝統の良さを体験し、このような素晴らしいことがあると発信している事例を幾つか紹介していただけますか。

○福澤指導主事 先ほど、統括指導主事から御紹介がありましたが、本市におきましては第九小学校が都の事業の指定を受けておりまして、日本の伝統文化の良さを発信する態度の育成事業に関わっております。その中で、先ほど御紹介があった三味線、昔遊び、折り紙等の日本の伝統文化を学んだ後に、留学生の方にそれを英語で発信していくという機会を設けております。また、私も今回、総合教育会議に向けて各校にいろいろとお話を伺う中で、やはり日本の伝統文化を紹介するという取組を行っている学校が幾つもあると伺いました。その中で、英語で紹介するためにALTの先生に言い方を確認する、聞くということを行っているとお伺いしました。ただ、それは外国語活動ではなく、それ以外のところで少し時間を取りながら確認していると伺っております。

○井澤市長 今、お話の流れが、グローバルな人材を育てていくというためには、まず日本を、国分寺市を知らなければいけないということをお話いただきました。それに関連して、何かま

たお話があれば、いかがですか。

○戸塚委員 今、市長がおっしゃった文化交流や国分寺市のことを知らなければいけないであろうということとは、少しそれてしまうのですが、私は本日のテーマ「グローバル社会で活躍する人材の育成について」を見て、例えば英語に的を絞って話をするのであれば、むしろ職業人として考えると、使える英語をどのように身につけることができるかという立場から考えてみました。聞くこと、話すことよりも、やはり読むこと、書くことが重要なのかなと思います。これは私個人の意見かもしれませんが。御承知のとおり、今、実社会ですとインターネットで外国の方とやりとりをする場合は、電話よりもメールでのやりとりがほとんどですので、そうするとやはり自分の言いたいことを書いて送る、あるいは向こうから書かれたものを受け取ってそれを読解することが社会人としては非常に重要です。そのため、聞くこと、話すことも当然重要なのですが、むしろこのようなインターネット社会になったがゆえに、読むこと、書くことが今まで以上に重要性を帯びているのではないかと仕事を通じて実感しております。先ほどこれからの小学校の英語教育の中の読むこと、書くことについては、どういう取組をされる予定なのかという御質問をしたのは、そのことを踏まえてお聞きしました。

それから、グローバル社会で活躍する人材というのは、何も英語ができるからグローバル社会で活躍できるかという必ずしもそうではなく、英語ができなくても活躍する人はいると思います。先ほどからお話に出っていますが、英語はあくまでも意思疎通のための手段です。何を言いたいのか、あるいは相手が言いたいことは何なのかということを、理解して自分の言いたいことを系統立てて、組み立てて、相手に伝えて、それを理解してもらう、相手を説得するという技術のほうやはり重要だと思うのです。小学生の間にそのことを身につけるのは非常に大変だと思います。しかし、少なくとも中学校段階では、ディベートを通して自分の言いたいことをしっかりと理論立てて説明して、相手の主張もしっかりと受け入れた上で、さらにそれに対して反論すべきところがあれば反論して、最終的にはどこか落ちつきどころがあればそこに落ちつくという技術が、これからのグローバル社会で非常に重要になると思います。特に欧米人は議論をするときは徹底的に議論しますし、アメリカは契約社会ですから何でも契約書でがちがちに規定します。そのような点で読解力、あるいはこちらの言っていることを文章にして説明する技能がこれからはなおさら重要になります。これからの次代を担う子どもたちには、そのようなことも意識した上で、頑張っていってほしいと思っています。

○井澤市長 非常に貴重な御意見だと思います。確かにおっしゃるとおり、これから特に実社会においては、仲良くするだけではなくて、いろいろと主義主張等をぶつけ合うなどの実務的な活用をしていかなければいけないと思います。その基礎的な部分を作るのは教育の場だと思っています。あわせて学校の英語の授業の中で従来行っていた以上のことも、読み書きのところでは行っていますよね。

○松浦学校指導課長 今、英語の向かうところのお話なのですが、以前から日本の英語は読むこと、書くことばかりなので、コミュニケーションが取れない、話ができないと言われてきましたが、徐々に話すことに重点的に取り組むように変わってきております。現在、東京都だけではなく、大学入試から大幅な改革が始まっていて、当然、読むこと、書くことも大事ですが、聞くこと、話すことのほうに重点が置かれてきていて、実は数年後の都立高校の入試では話すことが行われるという時代になってきております。実際に受験する子どもたちが全員話すという場面をどのように評価するかということが今課題で、東京都も検討をしておりますが、流れとしては今聞くこと、話すことのほうにだんだん移行してきているのが今の英語の状況です。

それからインターネットの利用や読み物も多くメールも使いますので当然読むこと、書くことも必要ですので、文法についてもしっかり学ばせていくというのは大前提ですが、重きは今、話すことのほうになってきているというところでございます。

○井澤市長 この資料の中でも、平成 32 年度に小学校新学習指導要領の全面実施で聞くこと、話すことに加えて読むこと、書くこととうたってありますので、先ほど戸塚委員がおっしゃった

内容もこの中に含まれていると思っております。また、今、徐々にレベルアップしていつている状況で、もう小学校に入ると英語の時間があるという状況ですので、例えば小学校を卒業して中学校に入ると、また違う形で読むこと、書くことにポイントが置かれた授業等も工夫されていくのだらうと思っております。

○佐久間委員 また話が戻ってしまうのですが、先ほど文化と人権課長から御紹介いただきましたし、教育長からも国分寺市内の文化団体との協力をしていきたいという嬉しいお話がありましたので、国分寺市伝統文化子ども教室のことについて、御紹介をさせていただきたいと思います。

国分寺市伝統文化子ども教室は、文化庁の伝統文化親子教室参加事業というもので、市内の伝統文化指導者が講師となって、平成 15 年度から継続しております。毎年多くの子どもたちが参加をし、5月から1月までを通して伝統文化を体験しております。現在は、伝統芸能としてお能、日本舞踊、詩吟、剣詩舞の4種目、生活文化として書道、茶道、華道、和装礼法の4種目、合わせて8種目で教室開催を行っております。私も剣詩舞の講師遠藤汀鳳として初年度より参加をしております。

国分寺市には、市としてともに主催をしていただき、教育委員会にも後援をしていただいているものです。担当の文化と人権課には大変お世話になっておりまして、先日1月27日土曜日に、いずみホールで15回目の発表会と式典を執り行い、今年度の活動を無事終えたところです。式典におきましては、市長、教育長及び校長会会長に、子どもたちが伝統文化を学ぶことを通して、自信や誇りを持てるよう励ましの御挨拶をいただきまして、誠にありがとうございました。

国分寺市は文化活動の盛んなまちとして市の内外に知られております。毎年市民文化祭が盛大に行われるほか、各団体もそれぞれに意欲的に活動しております。文化活動は趣味や生きがいとして大変重要なものですが、子どもたちや若い世代の育成が多く多くの団体で今課題となっております。特に伝統文化の継承には時間と労力が必要ですし、続けていく子どもの根気もまた必要になっております。

そのような中であって、国分寺市伝統文化子ども教室は15年間これまで継続してきました、子どもたちが育っていくことで、それぞれの文化団体や活動している地域の活性化にとっても役立っているのではないかと思っております。

このような活動なのですが、まだまだ認知度が高いとは言えない状況で、もう少し皆さんに知られていくといいと思っております。より多くの市民に知っていただき、伝統文化を体験する子どもたちが増えて、また外国の方も含めて、その成果を見る人たちも増えていくことで、今回のテーマであるグローバル社会で活躍する人材の育成や異文化交流ということにさらに貢献できるのではないかと考えております。

そこで、PR活動についてなのですが、講師はやはりなかなかそういうことが得意ではないということもありまして、できましたら国分寺市の持っている様々なネットワーク、チラシなどのアナログの部分も含めてなのですが、そのようなものを使って伝統文化子ども教室を市内の皆さんに広めていただくことを、さらに力を入れていただくと大変ありがたいと思っております。できるところから結構ですが御検討いただけますでしょうか。

○沢柳文化と人権課長 佐久間委員には、伝統文化子ども教室に本当に格段の御協力をいただきましてありがとうございます。この場で御礼申し上げます。今御指摘いただきましたPRについては、おっしゃるとおりだと思います。我々としましても、御指摘いただいたような様々なツールを活用した上で、少しでも多くの方にこの教室を知っていただいて、そして御参加いただけるように取り組んでまいりたいと考えております。今後とも御協力をよろしくお願いいたします。

○佐久間委員 ありがとうございます。活動をしていくに当たって大変励みになります。どうぞよろしくお願いいたします。

○井澤市長 ほかにいかがでしょうか。グローバル社会で通用する人間、また活躍する人材と

ということでお話をいただきました。教育長にお話をまとめていただけるとありがたいと思います。

○古屋教育長 英語教育の充実という点からお話をスタートさせていただきましたが、委員の皆様から様々な御意見をいただきまして、まずは感謝を申し上げたいと思っております。

外国の方々との関わりということも、そのような場の充実も必要ですし、また学校だけではなく、様々な部署で子どもたちが英語を使える場面をこれから充実していただけるという宣言もいただきましたので、それも期待するところでございます。また、英語教育においては、戸塚委員から読むこと、書くことについてもお話をいただきました。私もそう思います。ただその4技能をしっかりと身につけさせること、そのベースとなるものを大切にしながら、子どもたち1人1人が将来にわたって、自分自身にはどのようなものがより一層必要になってくるかという必要性を感じながら、さらに学び続けるということにつながっていくと思っております。

グローバル社会で活躍する人材の育成という大きなテーマで考えてきましたが、私もいろいろなことを考えました。さらに英語という視点だけではなくて論理的に説明できる力や冒頭でお話させていただきましたAIを活用する情報処理能力や活用能力も必要かもしれません。また、様々な課題にぶつかったときの解決能力や何でもチャレンジする精神力の強さを育てていくことも必要かもしれません。

私が最も大切にしたいことは、将来にわたって子どもたちが大きな夢を持ってそれに向かって突き進んでいく子どもたちを育てていければと思ったことでございます。グローバル社会が本当に急速に発展する中で、子どもたちをしっかりと育てる国分寺市の教育をこれから作っていかなくてははいけません。本日はそのための様々な御示唆をいただきました。感謝申し上げますとともに、またしっかりと取り組んでまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

また、市長からも様々な御支援もいただいて、TOKYO GLOBAL GATEWAYの予算化につきましても政策部長からしっかりと明言していただきましたのでありがたいと思っております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

○井澤市長 ありがとうございます。本当に様々な御意見をいただきました。本日は非常に大きなテーマでありまして、英語教育から入りましたが、実際には子どもたちの育ちをどのように支援していくのか、活躍できる基盤をどのように教育の中で育てていくのかという点へお話が及んだと思っております。国分寺市の子どもたち、青少年がいろいろな場所で活躍する時代が必ずや近いうちにもっともっとあるだろうと思っております。グローバル社会が急速に進展する中で、その中に身を置いてしっかりと活躍できる人材育成を国分寺市として、また教育としてもしっかりとサポートをしていきたいと思っております。

結論ではありませんが、そのようなことを本日皆さんと一緒に確認ができたというところで、本日の総合教育会議を閉会とさせていただきますと思っております。

平成29年度の総合教育会議は今回で終了いたしますが、平成30年度も新たなテーマで多くの課題を皆さんと一緒に議論をしてまいりたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。本日は、大変ありがとうございました。

3 その他

○井澤市長 それでは、その他ということで事務局から何かございましたらお知らせください。ないですか。よろしいですか。

それでは、本日の平成29年度第2回総合教育会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

午後3時30分閉会